

マツ並木に残る切株から生育している アカマツの樹齢を探る

笠取峠のマツ並木保存管理計画策定にあたっては、平成22～23年度に並木を形成するアカマツの生育状況を把握するために、胸高直径や樹高などを1本ずつ調べる毎木調査やアカマツの根や土壌への日照の多少が生育に与える関係を確認する照度調査、樹齢を把握するために切株による年輪計測及び根の張り状況を確認する根系調査などの現地調査を行いました。今回は、アカマツの樹

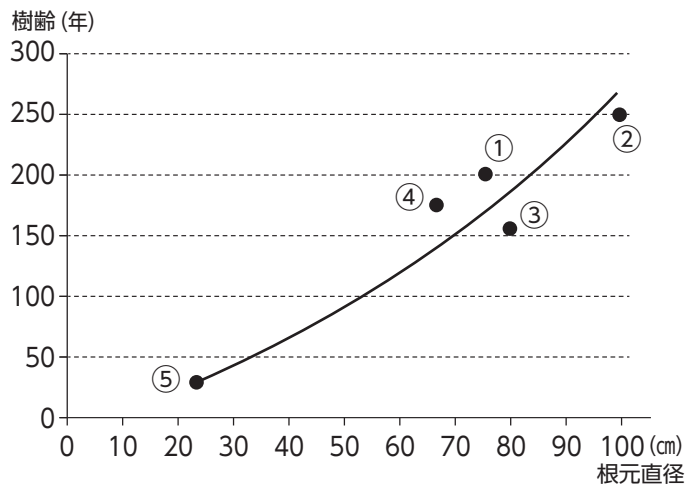
齢を把握するために実施した年輪調査の概要をお伝えします。

年輪調査は、並木に残る5つの切株を選び、計測を行いました。樹齢の算出方法は、枯死した年から、年輪調査木の樹齢1年目の年を算出しました。結果は次のとおりです。

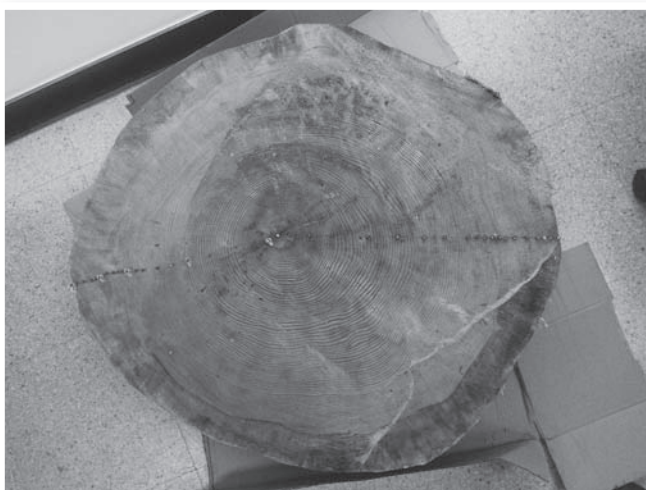
	調査木①	調査木②	調査木③	調査木④	調査木⑤
樹齢 (年)	200	247	152	172	26
根元直径 (cm)	76	100	75	65	24
枯死年	平成23年 (2011)	平成18年 (2006)	平成18年 (2006)	平成22年 (2010)	平成22年 (2010)
樹齢1年の年	文化8年 (1811)	宝暦9年 (1759)	安政元年 (1854)	天保7年 (1838)	昭和59年 (1984)

5つの年輪により、樹齢と根元直径の関係を右図に示しました。これをみると、根元直径70cm程度のアカマツは、樹齢150年程度であり、これは、1860年(江戸時代末)生のアカマツと推定できます。

なお、アカマツは日照条件等により生育が異なるため、これはひとつの目安として考えてください。



根元直径と樹齢の関係



調査木 ①



年輪を数えてみよう